

○聖書の知恵を追い求めて：人への恐れに関する三つの質問

1. “人への恐れ”とは何か？(25a) _____と_____から生まれる不安/恐怖

※1 サムエル記 17:10-11

「そのペリシテ人はまた言った。「きょうこそ、イスラエルの陣をなぶってやる。ひとりをよこせ。ひとつ勝負をしよう。」サウルとイスラエルのすべては、このペリシテ人のことばを聞いたとき、意気消沈し、非常に恐れた。」

※ヨハネ 12:42-43

「しかし、それにもかかわらず、指導者たちの中にもイエスを信じる者がたくさんいた。ただ、パリサイ人たちをはばかり、告白はしなかった。会堂から追放されないためであった。彼らは、神からの栄誉よりも、人の栄誉を愛したからである。」

「人を恐れる体験には、少なくとも一つの共通点があります。それは、人が実際以上に“大きな存在”になってしまうことです。彼らは心の中で偶像のように膨れ上がり、やがて私たちを支配するようになります。私たちの心には、神と人の両方を礼拝する余地はありません。人が大きくなるとき、神は小さくなってしまいます。」
(エドワード・ウェルチ)

2. “人への恐れ”がもたらす影響とは何か？(25b)

●人への恐れが引き起こす問題：二つの具体例

1) 恐れは人の言動を_____ (1 サムエル記 15:1-3, 8-9, 24)

※1 サムエル記 15:1-3

「サムエルはサウルに言った。「主は私を遣わして、あなたに油をそそぎ、その民イスラエルの王とされた。今、主の言われることを聞きなさい。万軍の主はこう仰せられる。『わたしは、イスラエルがエジプトから上って来る途中、アマレクがイスラエルにしたことを罰する。今、行って、アマレクを打ち、そのすべてのものを聖絶せよ。容赦してはならない。男も女も、子どもも乳飲み子も、牛も羊も、らくだもろばも殺せ。』」

※1 サムエル記 15:8-9

「アマレク人の王アガグを生けどりにし、その民を残らず剣の刃で聖絶した。しかし、サウルと彼の民は、アガグと、それに、肥えた羊や牛の最も良いもの、子羊とすべての最も良いものを惜しみ、これらを聖絶するのを好まず、ただ、つまらない、値打ちのないものだけを聖絶した。」

※1 サムエル記 15:24

「サウルはサムエルに言った。「私は罪を犯しました。私は主の命令と、あなたのことばにそむいたからです。私は民を恐れて、彼らの声に従ったのです。」

「聖書によれば、恐れとは単に怯える感情以上のものです。人を恐れることにはその要素も含まれますが、それ以上に、人を崇めたり、人に依存したり、人の意見をあまりにも重視するがあまり、いつしか自分の決断が彼らに操られてしまうことを意味します。私たちは恐れるものに従うのです。」

2) 恐れは真理を_____ (ガラテヤ 2:11-13)

※ガラテヤ 2:11-13

「ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といっしょに本心を偽った行動をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしまいました。」

※使徒 10:34-36

「そこでペテロは、口を開いてこう言った。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行う人なら、神に受け入れられるのです。…このイエス・キリストはすべての人の主です。」

「このことから、私たちが人の意見に流されないよう、いかに慎重に自らを守るべきかが分かります。人に気に入られたいという願いや、相手を怒らせないようという恐れが行き過ぎると、私たちは正しい道から外れてしまうのです。」(ジャン・カルヴァン)

3. “人への恐れ”に対する解決策とは何か? (25c) _____すること

▶「信頼する」

▶「守られる」

※詩篇 56:3-4

「恐れのある日に、私は、あなたに信頼します。神にあって、私はみことばを、ほめたたえます。私は神に信頼し、何も恐れません。肉なる者が、私に何をなしえましょう。」

※詩篇 27:1-3

「主は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。主は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。悪を行う者が私の肉を食らおうと、私に襲いかかったとき、私の仇、私の敵、彼らはつまずき、倒れた。たとい、私に向かって陣営が張られても、私の心は恐れない。たとい、戦いが私に向かって起こっても、それにも、私は動じない。」

※マタイ 10:28-31

「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。」

「私たちが最も恐れる対象が神ご自身となると、神は私たちにとって最も安全な居場所になります。神を恐れ、神を畏れ、ただ神を聖なる方として崇めるなら、神は聖所となり、危険から守る避け所となり、怒りからの隠れ家となり、どんな嵐の中でも守りの盾となってくださいます。…間違った恐れを捨てるには、正しい恐れを抱くことから始めなければならないのです。」(マーシャル・シーガル)